

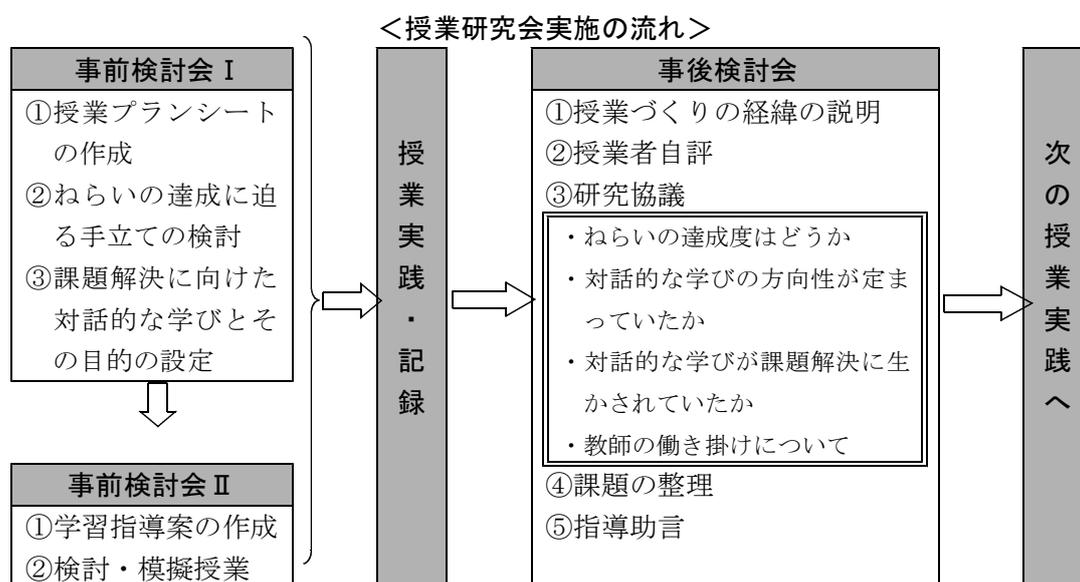
IV 専門部の取組

1 授業研究部

(1) 授業研究会・事後検討会の実施

教科・領域部会等で指導案を検討し、以下のように授業研究会を実施した。授業実践後は全体又は部会で事後検討会を持ち、本研究の視点1を受けて設定した手立てに沿って、成果・課題を協議した。課題は次の授業づくりへ引き継ぎ、主体的・対話的で深い学びの実現に迫るために、どのようなことに留意して授業をつくっていくべきかを話し合い、授業改善の方針を全職員で共有するようにした。

実践する教科・領域は研究教科・領域である国語科と海洋教育の領域に絞らず、対話的な学びのモデル図を活用し、方向性を明確にした対話的な学びを単元の指導計画及び学習過程の「解決する段階」に位置付け、算数科や理科の教科においても授業研究会を実施するようにした。



教科	授業者	「単元名」	○主な学習活動 【重視した対話的な学び】
国語科 (話すこと・聞くこと)	教諭 庄司慶裕 (6年2組)	「問題を解決するために話し合おう」	○互いの話し合いをモニタリングして改善点や留意点を見付け、よりよい話し合いの仕方について考え、6年2組の話し合いの約束を決める。 【「拡大」レベル2】【「融合」レベル2】
国語科 (読むこと)	教諭 松岡恵理 (4年1組)	「人物の変化をとらえよう『走れ』」	○中心人物の気持ちの変化について読み取ったことを一文にまとめ、自分の考えの変容を学びの成果として実感する。 【「融合」レベル2】
海洋教育 (社会科)	教諭 及川朋恵 (3年1組)	「市の様子」	○写真や地図等の資料を活用して気仙沼港の周りの様子について調べ、気付いたことを観点に沿って分類してまとめ気仙沼市の特徴を捉える。

		【「比較」 レベル1】
理科	教諭 千葉貴幸 (4年1組)	「電気のはたらき」 ○乾電池のつなぎ方とモーターが回る速さを調べるための実験の方法と手順を自分たちで考えて検証し、直列つなぎと並列つなぎの違いに気付く。 【「比較」 レベル1】
国語科 (読むこと)	教諭 千葉貴幸 (4年2組)	「人物の変容をとらえよう『走れ』」 ○中心人物のぶよに絡みついていた思いとは何かに対話的な学びを通して気付き、「ラスト」が誇らしく聞こえたことについて話し合う。 【「拡大」 レベル1】【「融合」 レベル2】
国語科 (読むこと)	教諭 吉川百合子 (4年2組)	「人物の変容をとらえよう『走れ』」 ○中心人物の気持ちの変化について読み取ったことを一文にまとめ、自分の考えの変容を学びの成果として実感する。 【「融合」 レベル2】
算科数	教諭 千葉貴幸 講師 畑山洸人 (4年2組)	「考える力をのばそう『ちがいに目をつけて』」 ○課題を解決するためにペアで色紙を操作する活動に取り組みせ、自分たちが行った操作活動の手順と気付いたことを数直線を使って説明する。 【「融合」 レベル3】
国語科 (話すこと ・聞くこと)	教諭 木村綾奈 (2年1組)	「たからものをしょうかいしよう」 ○教師のモデルスピーチを聞く活動を通してスピーチを聞くときの留意点を全体で共有し、友達と質問の内容や感想の述べ方を評価し合う。 【「比較」 レベル2】
国語科 (読むこと)	教諭 熊谷美幸 (1年1組)	「かいがら」 ○挿絵の表情や言葉、場面の様子を基に登場人物の心情を想像しながら読み、互いの考えを全体で共有する。 【「比較」 レベル1】
総合的な 学習の時間 (海洋教育)	教諭 渡邊一磨 (5年1組)	「海と人の共生について考えよう」 ○海水温の上昇を切り口に環境の変化と自分たちの生活との関わりについての関心を高め、単元のテーマと学習についての見通しを持つ。 【「拡大」 レベル2】
国語科 (読むこと)	教諭 今野珠穂 (4年1組)	「身の回りの文章を読み比べよう 『広告と説明書を読み比べよう』」 ○広告と説明書に書かれている内容や事柄の取り上げ方の共通点・相違点に気付かせ、全体で双方の特徴やよさを整理する。 【「比較」 レベル1】【「選択」 レベル2】

(2) 協働的な授業づくりについて

部会に所属する職員による協働的な授業づくりに当たって、指導案作成前の段階で授業者が以下のような授業プランシートを作成し、事前検討会の資料として活用した。授業者の思いや考えを部会で事前に共有することで職員全員が授業者と同じ目線で児童の学びの様子を参観し、課題意識を持って授業研究会に参加できるようになったことは共同研究の大きな成果と捉えている。

2年1組 国語科 授業プランシート		授業者 教諭 木村綾奈
単元(題材)名	あそびのやくそくを話し合おう	
単元(題材)の目標	互いの考えをよく聞いて、話題に沿って話し合い、グループの考えをまとめることができる。	
本時の目標	あんば祭りでの活動の約束について、グループで話し合って考えをまとめることができる。	
	授業者の視点(手立て)	<p>【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善</p> <p>ア 話し合いの目的を共有させるために、「みんなで仲良く活動する」という共通の願いを持たせ、学習課題を設定する。</p> <p>イ グループでの話し合いでは、話題に沿った意見交換を行わせるために、状況に応じた助言を行う。(具体的な助言内容の検討)</p> <p>ウ 児童の気付きや疑問を引き出すために、話し合いで決まった約束を画用紙に書かせ、掲示し比較させる。</p> <p>エ 学びの成果を実感させるために、話し合いや実際の活動(11月後半予定)の振り返りをさせる。</p>
評価規準		
おおむね満足できる状況	十分満足できる状況	努力を要する児童への手立て
自分の考えを持って友達と話し合い、グループの考えをまとめることができる。	共通の願いに沿った自分の考えを持って友達と話し合い、互いの考えをよく聞き、グループの考えをまとめることができる。【融合2または3】	考えを持つことが困難な児童にはいくつかの選択肢から自分の考えに近い考えを選ばせてから話し合いに参加させる。
単元の構造		
<p>みんなで話し合ってよかった(▽)</p> <p>↑</p> <p>約束を生かした実際の活動(児童会あんば祭り)と振り返り</p> <p>↑</p> <p>【結論】(3つの約束)</p> <p>↑</p> <p>1次を意識した話し合い</p> <p>↑</p> <p>二次「話し合いを生活に生かす(スキルの定着)」</p>		<p>一次「話し合いのために(スキルの定着)」</p> <p>↑</p> <p>【結論】(3つの約束)</p> <p>↑</p> <p>話題に沿った意見交換になっていること</p> <p>↑</p> <p>グループの考えがまとまっていること</p> <p>↑</p> <p>【話し手】 分かって話 序立てて話</p> <p>【聞き手】 だいたい ずくに聞く。</p>

【資料1 授業プランシート】



【写真1 事前検討会の様子】



【写真2 授業者の思いを共有する様子】

(3) これまでの授業研究会の記録

記録1 第6学年2組 国語科(話すこと・聞くこと) 授業者 教諭 庄司慶裕

①授業の概要

単元名 「問題を解決するために話し合おう」

目標 問題を解決するための話し合いを進める手順や役割ごとに気を付けることを明らかにすることができる。

手立て ① よりよい話し合いの仕方に気付かせるために、学級全体を話し合いを行うグループとモニタリングをするグループに分ける。 【視点1ーイ】
② 様々な改善点に気付かせたり、友達の助言を生かしたりさせるために、はじめに話し合いを行っていたグループ、次にモニタリングを行っていたグループの意見を発表させる。 【視点1ーウ】

②事後検討会から(主な成果と課題)

視点1ーア 思いや考えを持たせる工夫について

○「話し合いグループ」「モニタリンググループ」と役割を分けて与えたことによってやるべきことが明確になり、児童は見通しを持って学習に取り組むことができた。

●目当ては話し合いのスキルの育成に目を向け、「よりよい話し合いを進めるためのポイントを見付けよう」とした方がよかった。

視点1ーイ 思いや考えを伝え合わせる工夫について

○ねらいに応じた学習形態の工夫が効果的であった。

○自分の気づきを友達に伝えようと進んで発言する児童が多くいた。教師が取り上げようとしていたことも、児童が話し合いの中で発言していた。

●モニタリングをする児童には、話し合い活動を評価する観点(「問題の原因が明らかになっているかどうか」「司会の進め方かどうか」「意見と理由はつながっているか」等)がもっと具体的に必要だった。

視点1ーウ 学びの成果を実感させる工夫について

○本時での学習活動を通して気付いたことを次の学びに生かそうとする記述や発言が多かった。次の話し合いでは学んだことを生かして「どのように改善できたか」を振り返らせるとよいのではないかと。

●出された意見を似ているもの同士で分類していくとき、児童が本当に納得しているかどうかを確かめながら分類していかなければいけなかった。



【写真3 話し合い活動の様子】



【写真4 留意点を類型化する様子】

①授業の概要

単元名 「人物の変化をとらえよう『走れ』」

目標 ・友達との対話的な学びを通して、中心人物の気持ちの変化を読み取ることができる。
 ・読み取ってきたことを生かして、物語文を一文にまとめて書くことができる。

手立て ① 課題解決までの見通しを持たせるために、目当てを示した後、掲示物を使って前時で見付けたクライマックス場面を全体で確認する。

【視点1ーア】

② より深く読ませるために、3人グループでそれぞれが読み取ったことや考えたことを融合させる場を設ける。

【視点1ーイ】

③ 児童に自分で学んできたことの深まりを実感させるために、振り返りの場面で単元の序盤で書かせておいた一文と本時で書いた一文との比較をさせる。

【視点1ーウ】

②事後検討会から（主な成果と課題）

視点1ーア 思いや考えを持たせる工夫について

●全文を掲示しているので、ポイントとなる言葉を付箋や吹き出しを活用して目立たせておくべきだった。

視点1ーイ 思いや考えを伝え合わせる工夫について

○グループで対話させたことによって、友達の考えを参考にして深い読み取りをすることや内容の大体を一文に書き表したりすることができた。

●内容の大体を一文で表現するに当たって、着目させておきたい叙述はどの部分なのかを事前に明確にしておきたい。前時まで「体にからみついていたいろいろな思い」「ぎゅんと足が出た」の部分を中心に読み取っておく必要があった。

視点1ーウ 学びの成果を実感させる工夫について

○深い読み取りをしている児童、友達の考えを聞いて更に深く読み取る児童が多く、授業者がその児童の学びの様子を取り上げていた。

●最高の一文を書くためには「どんな一文が最高なのか」を児童に捉えさせる必要がある。本時で気付かせた「最高の一文」の観点をを用いて、別の学級で作った一文を評価する活動があると更に学びが深まるのではないかと。



【写真5

対話を通して一文を書く様子】



【写真6 全体で学びを深める様子】

①授業の概要

単元名 「市の様子」

目標 写真や地図等を活用して港周辺の土地の様子について調べ、気仙沼港の周りの様子について気付くことができる。

手立て ① 気仙沼港の周りの土地利用に気付かせるために、校外学習で利用したワークシートや地図上では確認できない気仙沼港周辺の建物の資料を提示する。 【視点1ーア】

② 地形や土地利用の違いに気付かせるために、前時までの場所との違いを学習掲示物を参考にしながら比較させ、自分の考えを持たせる。

【視点1ーイ】

②事後検討会から（主な成果と課題）

視点1ーア 思いや考えを持たせる工夫について

○実際に撮影してきた工場の写真，その工場で働く人の様子を資料として提示したことがよかった。

●単元の構成について，土地の様子を調べていく順番は海を最後ではなく最初に位置付け，学習していく様々な要素（交通，人口，産業等）とのつながりを見童が見いだすように仕掛けた方がよかった。

視点1ーイ 思いや考えを伝え合わせる工夫について

○児童は土地の使われ方に目を向け，特徴に気付いていた。「（港付近の）この場所はコンクリートで整備されていたよ」「市場付近は道路が広がっている」等，授業者が期待するつぶやきが多く出された。

●3年生の児童に読み取りをさせるのであれば今回配付した地図では難しいのではないかと。単純で分かりやすく，適切な情報量の資料を用意するようにしたい。

●資料のどの部分に着目すべきなのかを明らかにするために，資料活用の観点を明確に示す必要があった。

視点1ーウ 学びの成果を実感させる工夫について

●課題解決につながる重要な気付きを全体で共有することが本時ではできなかった。対話を通して共有した友達のよい気付きを，自分の考えをまとめる場面で生かす経験を積ませていくようにしたい。



【写真7 資料を読み取る児童の様子】



【写真8 読み取ったことを伝え合う様子】